

経営理念	【教育目標】 のいちっ子 つながるころ のびゆく子
	【経営目標】 『幼児一人一人を大切に、自ら学ぶ意欲と環境にかかわる力を培う幼稚園』をめざす。
〈子ども像〉	○じょうぶな からだ ○きれいな ころ ○かがやく ひとみ
	〈幼稚園像〉 ○意欲的に遊ぶ子どもの育つ幼稚園 ○自分で考え行動し、自らしようとする子どもを育てる幼稚園 ○友達と仲良く、思いやりのある子どもの心を大切にする幼稚園
〈教師像〉	○豊かな感性をもち、感じたことや考えたことを表現する子どものいる幼稚園
	○子どもが自分でやってみようとする意欲を大切にして自立していく力を育てる教師 ○一人一人の子どもの心に寄り添いながら援助する教師 ○豊かな環境作りに努め、子どもらしく思いきり楽しく遊ぶ生活を保障する教師 ○豊かな人間性と指導力の向上に努める教師

今年度の重点目標		評価項目	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
☆保育・教育活動の充実	① 幼児理解を基に子ども一人一人が遊び込めるようになるための保育について	① 子どもと共に遊び、一人一人の幼児の内面を理解する	研修や日々の振り返りで、今何を楽しんでいるのか、育ちや経験していることは何かなど内面理解をし、意識しながら保育を行ってきたことで、子どもと職員の思いのズレが減ってきたことは、成果である。しかし、保育の伝え合いや少しの違和感を話しながら内面理解を深めることや思いのズレを減らすことを意識した取り組みを行うことには、まだまだ課題が残る。	B	子どもとのズレがどんなことなのか、説明をしてもらったことでよく分かった。しかし、職員がズレに気付き意識しながら保育を進めており、ズレが少なくなってきたことは大きな成果ではないか。この成果を次年度につなげもっと良くなることを期待する。	B	一人一人の内面理解に努め、深く読み取った保育につなげていけるよう、今後も継続して内面理解を意識した保育に取り組んでいく。
		② 子どもの姿や行動・言動等から、子どもの姿に応じた環境の再構成を行っている	再構成を行うタイミングの難しさや子どもの姿に合った環境を整える難しさを少し感じてはいるが、育ちや発達を捉え、環境構成を考えていくようになった。子どもの姿を正しく捉え再構成を行うことで、遊びが展開されるようになったり子どもが遊び込もうとしたりする姿につながってきた。	A	子どもの姿から育ちや発達を捉え、環境構成を考えていくようになったという職員の頑張りが感じられる。子どもの姿に合わせ再構成をすることや何よりも子どもの姿が遊び込もうとする姿につながってきていることは大きな成果であろう。	A	子どもの内面を正しく捉えることを意識し、遊び込もうとしている姿から遊び込む姿につながっていけるよう、今後も子どもの姿に応じた環境の再構成を行っていく。
		③ 子どもの興味・関心に応じた遊びや運動を取り入れ、多様な動きが経験できるようにする	子どもたちの姿を基に、どのような遊びや運動あそびを取り入れようか考え保育を行うことができた。しかし、計画に入れてはいたが、リズム運動は継続的にできなかった。新しい遊びや運動あそびの工夫にはつながらなかったため、教材研究が課題として残った。	B	継続的にはできなかったところは残念だが、高低差を上げたり下りたりくねくね道を走ったり多様な動きを取り入れた遊びに取り組んでいることで、段差でつまずいていた子どもがつまずかなくなったことやバランスが取れるようになってきたことなどは成果である。今後も多様な動きが経験できるようにしていってほしい。	B	継続的な取り組みや多様な動きの経験について園全体考えながら、保護者からの運動量を増やしてほしいという意見も意識して、今後も多様な遊びが経験できるような計画を立て、継続した取り組みを進める。
◆職員資質向上や運営	① 保育の振り返りや細やかな記録から、幼児理解を深め、資質向上を行う。	① 保育の振り返りと記録	幼児理解を深められるよう、楽しかったことだけではなく気になること等も含め、情報共有しながら振り返りを行ってきた。子どものつぶやきや行動、うまくできた時と出来なかった時の違い、また学級全体の子どもの姿を偏りなく記録すること等、視点を持ち具体的な記録につながってきていることは成果といえる。資質向上に向けさらに工夫をしていきたい。	A	職員の自己評価が高く、意識しながら取り組んでいることに對し、もっと深いものにしていきたいという職員たちの熱意を感じ、向上心は素晴らしいと思う。今後も意識を高くもち、取り組んでほしい。	A	今後も引き続き、しっかりとした視点を持ち保育の振り返りや細やかな記録をとり、保育の振り返りや幼児理解を深め資質向上を目指す。
	② 保育の中で、子どもの動きや設備等に目を向け、危機管理や安全管理について意識を高めていく	② 危機管理や安全管理など、職員や子どもの安全に対応する力を高める	新聞やテレビ等のニュースに目を向け意識をするようになった。知り得た情報を吟味して、保育に取り入れてきたことで、職員の意識が高まり保育につながった。なお一層、職員や子どもの安全に対応する力が高まるように意識をして、あらゆることを想定した避難訓練を行ったり、日頃から危機管理や安全管理について話を合ったりしていく必要がある。	B	子どもを預かっている施設として、評価がBというのはどうかと思う。説明を聞くと真剣に取り組んでいるし、職員の危機管理や安全管理の意識は高いと感じる。これで終わりということはないので、意識を高く持ったまま継続して行ってほしい。	A	もっとできることはないかと意識を高く持ちながら取り組んでおり、さらに上を目指し保護者にも安心してもらえるよう努力を続ける。今後もあらゆることを想定した訓練を行い、職員も子どもも安全に対応する力を高めていく。
◎地域に開かれた園づくり	① 幼稚園内の異年齢児や保育所・小学校・中学校や地域と連携を取り、互いのねらいを共通理解して交流活動を行う	① 幼稚園内の異年齢児や保育所・中学校、地域との交流活動	園内での交流を計画的に行い、異年齢での遊びや散歩を取り入れたことで、日常生活や遊びの中で、自然と関わりが生まれ互いの名前を呼び合い一緒に遊ぶ姿が多く見られるようになったことは成果である。また、年長児は、保育所・小学校との交流を積極的に行い、小学校への不安が減り期待が大きくなってきている姿が見られてきた。交流活動について保護者への発信は十分ではなかった。	A	園内の異年齢での交流の仕方や行事の見直しをしながら実践してきたことで、子どもの姿に変化が見られたことは成果である。また、保育所・小学校間での交流も負担なくゆとりを持った活動が行われていた。互いの思いを伝えあいながら子どもたちのことを考えた交流となっていた。取り組みを継続して行ってほしい。	A	異年齢では、名前を呼び合いながら自然と遊ぶ姿が多く見られているため、園内の交流には継続して取り組んでいく。小学校との連携では、これまでの取り組みを継続しながら、保護者への発信の内容を充実させていく。
	② 在園児と未就園児と一緒に遊ぶ場や機会をつくる。	② 園庭開放等（うさぎらんど）の実施	コロナは収束したが、感染症が広がっていたこともあり、前半は実施する難しさがあった。感染症が少なくなっからは毎月2回目標に実施を行った。行事への参加も呼びかけながら回数を重ねるうちに、未就園の子どもや保護者に挨拶をしたり、一緒に遊ぶ姿が見られたりしてきた。	B	近隣には安全に遊べる場所が少ないため、こういう取り組みは未就園親子にとってはよいと思う。一定の成果は見られているが、評価項目をもう少し下げてもいいのではないかと感じる。	B	感染状況を確認しながら内容の検討を行い、無理なく取り組んでいけるようにする。